

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンセラライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ 1階		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成24年2月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者一人ひとりの状態を常に把握し、細かい所まで介護が行き届く様、職員で常に話し合いケアを心がけています。又、御家族様より忌憚のない意見を伺えるよう常に連絡を取り、利用者様、ご家族様の御希望に添えるよう日々努めています。職員のスキルアップのため、内部研修会を毎月、定期的に外部研修会にも積極的に参加するようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「安心感のある・笑顔のたえない・自由な暮らし」の実現に向けて、職員全体での支援がある。受診時でのチェック表、「いきいき通信」では入居者別の欄を設けての編集など、随所に工夫がある。管理者、ケアマネなどが、かかりつけ医への同行等、適時対応している。毎月のように、行事を組み楽しめる工夫がある。布団干し、シーツ交換など、天気が許せば5日に1度程度行い、気持ちよく暮らせる支援がある。入居者が、安心して、ゆったりと過ごせる様、接し方に工夫がある。制止や希望の断わりではなく、表現に注意し柔らかに接している。居室の温度、湿度等に配慮し、必要があればぬれタオル、水を張ったバケツを利用する等、工夫がある。玄関前にプランターの花を置き、飛び出さないようにしながら、見た目にも気を使う等、細かな配慮がある。玄関施錠はない。全体に自由や思いの束縛をせず、安全に配慮し、できるだけの支援を実現する姿勢が見られる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務所、リビングに掲示している。毎日のケアの中で理念を大切に「ここは私の家」と言っていたるように、全職員で取り組んでいる。	毎朝9時の申し送り時に、職員が理念を唱和し、入居者にとってホームが自分の家として安心して生活できるよう職員の自己チェックリストを活用し、常に振り返る機会を設け、理念がケアに反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地区の防災訓練に参加している。また、地域の喫茶店に行き軽食を摂ることもある。毎日の食材は地域のスーパーから配達がある。訪問美容も地域の方に来て頂いている。	年2回、ホームで家族会の行事をする際には、近隣住民に案内を手渡しで配布し、気軽に参加してもらえるよう声かけをしている。又、地域の小学校の敬老会に参加、消防訓練に町内会役員の参加がある、など地域との接点を持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が外部研修に参加することで、知識向上につなげ、地域の方に認知症について理解や介助の仕方、支援方法を伝える勉強会を検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者家族、一宮市高年福祉課、地域包括支援センター、民生委員、町内会長を参加者として隔月で開催している、参加者より、疑問・質問があった時は、丁寧にお答えしています。	運営推進会議では、日頃のホームの取り組みや実情を伝えている他、外部研修の報告をし、情報交換や意見交換をしている。また、それをホーム内のミーティング等で取り上げ、サービス向上に活かす取り組みがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度でわからないことや生活保護関係等について不明な点は直接出向いたり、電話で担当者から指導を受けています。市の主催する認知症・感染予防・虐待の研修に職員が参加している。	市役所の高年福祉課へは、認定更新時、紙オムツの申請時など、月に2・3回は訪問し、担当者に気軽に相談等に対応してもらえるような関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを行い、夜間は防犯上施錠を行う。外に出られる際には一緒に外出している。新規職員が多い為講師を依頼し内部研修を行う。	玄関と事務室に、身体拘束等の排除の理念及び方針が掲示され、職員全体で日頃から、共有認識を図っている。家族からの要望で、夜間のみ、つなぎ服使用しているケースがあるが、状況に応じて使用を止めていく旨を説明し同意を得ている。	医師、家族との連携のもと拘束を解消する工夫が、期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市が主催する研修会に職員が出向き、事業所内にて内部研修を行う。高齢者虐待の背景や虐待に至るまでの介護者の心理を勉強することで、日々の介護に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設部会の研修に参加している。運営推進会議にて地域包括支援センターより権利擁護業務について解りやすく説明をして頂いたり、利用者後見人司法書士の方から解りやすく説明を受けることで、理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間な時間とって頂き、ご家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に関しては玄関に意見箱を設置してある。今年の夏祭りでは、家族様にアンケートをお願いし率直なご意見を書いて頂く。今年6月より隔月お便りをご家族様に送り好評である。	ホーム入り口に意見箱を設置しているが、意見・要望はほとんど直接施設長に伝えられている。ホームからは2カ月に1回「いきいき通信」での、個別のおたよりを家族に送付している他、毎月必ず施設長が家族に電話をし、意見等を気軽に伝えられるような機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回決起大会に代表の講和があり、各事業所の運営状況等を聞く機会がある。その際に意見や質問を受け付ける時間が設けてある。職員からは休暇について、希望に沿うよう配慮している。	事務室に鍵付きの提案箱があり、職員が自由に意見を言い表せるよう配慮している。又、その提案箱は本社で開錠され、会議で案件事項として、取り上げられる。内部研修の他、外部研修にも職員が参加し、運営推進会議で報告がされる他、ミーティングにて発表し共有の機会がある。職務の分担、勤務シフト等意見を取り入れ行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、毎年雇用契約書更新時は、マネージャーや施設長とヒヤリングの時間を設けることで、直接要望等を伝え、働きやすい職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立てている。外部研修や内部研修会を開催することで全職員レベルアップにつなげていけるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設での職員の研修を相互に行い、お互いの職場の良いところを参考にして、日々の介護に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者の自宅または施設に伺い、本人の意見をじっくり傾聴し安心して利用していただける場所であることを理解してもらえるよう努めている。また、見学を兼ねおやつの時間帯を利用することでホームに馴染んで頂き入所へと結びつけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様から、在宅での生活困難状況や介護に対する不安等に耳を傾けることで、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何に困っているのか、どのようなサービスを必要としているのかを、お尋ねすることで介護保険制度の説明をし理解していただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一緒に行い、出来ない所を職員で補うよう努めている。調理を行う時は、入所者様の経験・知識をお聞きし教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	親睦を深める為にバーベキューやクリスマス会にはご家族様に案内を出すことで、参加を促している。常時ご家族との絆を大切にしながら交流の場を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に掛けて、買い物や外食を楽しんでいる方もいる。また、入所前の馴染みの方が時々来所され交流してみえる。	入居後の馴染みの関係の支援として、散歩時には近隣住民に挨拶をしている。又、近くの喫茶店で顔馴染みの関係が出来ている。その他、家族や知人と電話で話したい等の希望があれば電話をかける支援、年賀状発送支援等している。家族との連携で、馴染みの場所への訪問等、希望に沿った支援がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者と職員と一緒に体操をしたり、家事を共にすることで、お互いに助け合い・譲り合い毎日を共に暮らしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所された方の今までの生活状況を伝えたり、時には面会に出かけたりして今までの関係が途切れないように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の日々のつづやきの中から、希望や意向を把握する努力を怠らないように介護に努めている。	入居時、本人・家族からの聞き取りの他、入居者との日常の関わりの中での気づきを記録し、ミーティング等で話し合われている。入居者で、家事が得意な方には、手伝ってもらい、昔支店長をしていた方に行事の挨拶をもらうなど、本人本位の立場に立って考え、活躍できる場面づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から毎日の生活歴や生活環境を聞き情報を共有することで、ご本人に合った暮らしができるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの気持ちを大切に、有する能力を引き出すことで、毎日が楽しく過ごしていただけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ご家族が来所された時にご希望を伺ったり、担当職員から入居者様の様子や気づき等意見を出してもらい介護計画に反映させている。	毎月担当者がアセスメントをし、個別のケース記録に記入し、情報の共有をしている。ケース記録の他、家族からの聞き取りを元に、半年または、年に1回モニタリングをし、介護計画が作成されている。状態の変化があれば、その都度、計画の見直しが行われる。医師への受診時での質問票を作り、結果を記録し情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気づきや身体状態は業務日報やケース記録に残すことで、全職員情報を共有している。毎月のミーティングでは意見を出し合うことで介護計画を見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外は、原則ご家族対応になっているが、現状はほとんどは施設対応で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の喫茶店や飲食店へ外出に出かけたり、地域の防災訓練に参加することで地域との関わりを増やすことを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回かかりつけ医による往診や今までのかかりつけ医にご家族と受診継続をされている入居者の方の方もいる。	毎月1回、協力医による往診がある。かかりつけ医の受診については基本的に家族対応としているが、家族の事情により、職員が随時対応している。受診後、家族へ電話で報告している。口腔ケアについては希望すれば協力歯科医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、協力医と連携をとることで健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係に対して、ご本人様に関する情報の提供を行い、安心して治療に専念できるように努めている。また、退院期日の問い合わせやその後の支援の方法等、ご家族と話す機会を持つことで安心につなげる様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに関しては、医療行為が必要になったときには医療に委ねることを含め、状況に応じたサービスが受けられるように、早い段階から家族やかかりつけ医と連携をとれるように取り組んでいる。	入居時に、利用者・家族に延命処置についての説明をし同意をとるようにしている。現在のところ、医療行為が必要になった段階で、協力医から入院先を紹介をしてもう等、施設として協力支援がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署と協力しての訓練を行っているが、応急手当の定期的訓練は実施していない為、今後消防署主催の講座に参加をしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え年2回消防署指導のもと、地域の方の参加や入居者様と消化訓練及び避難訓練を実施している。防火頭巾や飲料水・食料品の備蓄にも努めている。	年2回、消防署指導のもと、昼間想定で、消火訓練と避難訓練を実施している。その際、地域代表として町内会役員の参加もある。日常の散歩時に避難場所の確認をしている。ホームの備蓄として、三日分の水・食料がある。	地域団体、住民などとも、災害時での協力体制の確立が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に入室する時には、必ずノックをするか声かけをしている。トイレや入浴介助にはプライバシーを損ねない言葉かけを実践している。書類やメモ等は必ずシュレーターにかけ破棄している。	入居者の名前の呼びかけ方については、苗字に“さん”付けを基本としている。居室は自宅の認識での支援、職員同士の会話でも丁寧語を使い、ホーム全体で、馴れ合いの言葉使いにならないよう努めている。1月より講師を呼びホーム内で講習を実施し、入居者の人格を尊重する対人援助等について学ぶ取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、ご本人様の何気ないつぶやきを大切に希望に沿うように努め、言葉で自分の意思が伝えられない入居者に対しては、表情や顔色から思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、入居者の心身の状態に合わせて、柔軟に対応している。朝ゆっくり寝ていたい方や入浴時浴槽からお湯があふれ出ること満足を得られる方の希望に沿っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容を利用しています。また、職員と一緒に出かけ好みの衣料を購入したり、着替えはご本人様の希望により更衣介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に応じて下ごしらえや、調理を一緒に行う中で、好きな食べ物を聞き献立に活かし一人ひとりの有する能力に応じて配膳、下膳、洗い物、片付けなども一緒に行い、誕生日には、希望食を取り入れています。	食材は入居者の希望を取り入れながら決め、旬の食材を意識したものを配達してもらっている。また、調理・片付けなどは無理強いないでできる範囲での参加をしている。節分のときには入居者と一緒に関方巻きを作り、パーティーをするなど、季節行事に合わせて食事を楽しむ工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	インターネットから高齢者メニューを利用することで必要カロリー計算はできている。嚥下状態の悪い入居者にはミキサー食で対応し、食事量・水分摂取量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケアや食後の口腔ケアが習慣になっている。また、希望の方は歯科衛生士による月4回の口腔を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで、排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、前の排泄より2時間経過している方には声かけをし、トイレ誘導をしている。車椅子使用の入居者もトイレに誘導し、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、入居者の状態に応じて、夜間は紙パンツにパットでも昼は布パンツにパット使用に変えるなど個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維を多く含む食材を利用することで、便秘予防に工夫をしている。10時のおやつにはバナナやヨーグルトを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否される入居者には、再度時間をみはからい声掛けをすることで入浴を促している。入浴剤で温泉気分を堪能して頂き楽しんでもらっています。	入浴時間を午前10時～12時・午後13時～16時とわけ、希望の時間帯で入浴が可能である。浴室と脱衣所は入浴前に浴室の暖房をつけ、ドアを開放し、温度差が無いよう配慮している。入浴後の水分補給は麦茶・ポカリスエット等、好みに合わせた飲み物を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床時間に決まりはなく、個々の生活習慣を大切にしている。冬季には湯たんぽを利用することで足元が暖かく安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書にて一人ひとりの内服薬の種類・効能等を把握し、服薬チェック表を使用し、飲み忘れや誤飲のないよう確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・洗濯物干しや洗濯物たたみ等本人の能力に応じて職員と一緒にこなしている。天気の良い日には散歩に出かけたり、月1回行事に外食を楽しんだり外の空気に触れることで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時はできるだけ外出するようにしており、近所へ散歩に行っている。また、月1回行事で外食や喫茶店等に出かけている。さらに、ご家族の協力で普段行くことができないところに出掛けられる方もいる。	月に1回近くの大型スーパーへ車で行き、外食をする日を設けているほか、天気の良い日は近所の遊歩道を散歩している。その際、入居者の体力や状態を見ながら大回りコースまたは、小回りコースを選択し、散歩によって入居者が疲れてしまわないように気をつけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣いを管理している入居者がみえるが、他の入居者は家族の意向で金銭管理を施設が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があればいつでも対応しています。お正月には年賀状を書いたりして家族に近況を伝える支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓ははきだしになっており、明るく開放的になっている。玄関には入居者が育てている花が1年中咲いて季節を楽しませてくれている。	リビングには職員の私物である昔ながらの雛人形が置かれ、壁には入居者と職員で製作した大きな雛人形と桜の木の作品を掲示する等、季節に応じた飾り付けがある。毎日、職員が、トイレ・通路・リビングを清掃し、清潔な環境が保たれている。又、各フロアに一台ずつ加湿器が置かれ室内が乾燥しないよう配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはソファを配置することで気の合う入居者同士おしゃべりを楽しむスペースになっている。畳のスペースで昼寝を楽しむ入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様が自宅で使い慣れた家具が持ち込まれ、居心地の良い空間がつけられている。	居室は、職員が毎日掃除をし、ベッド・タンス等、入居前から使っていた物を持ち込み入居者が安心して過ごせる部屋作りがされている。和室希望であれば、畳の貸し出しもある。また、居室でも夜間は、濡れタオルやバケツに水を入れておき乾燥を防ぐ工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには、目の高さに大きく名前を掲げ、トイレや居室には「使用中」の札を下げることで混乱しないように努力している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	利用者の方にとっての楽しみや喜んでいただけるサービスを提供したい。			ヶ月
		①何もすることもなく、時間をもてあましています。	①午後のレクリエーションを充実し、楽しんでいただく。	簡単に継続することができるレクリエーションを曜日ごとに考え利用者様に楽しんでいただく。	6ヶ月
		②毎日同じ事の繰り返しで、なかなか自分にとっての楽しみがない。	②個々に満足のできる楽しみを職員と一緒に行動し見つけ、楽しむことができる。	②利用者様担当職員が月1回、マンツーマンでその方が喜ばれそうな事を考え、自由に行動し楽しんでいただく。	6ヶ月
					ヶ月
					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。